

## 新技術の活用【第1四半期(4～6月)ランキングトップ10】

### 平成20年度 第1四半期の新技術活用ランキング

順位	技 術 名	NETIS番号	活用件数	技 術 の 概 要
1	手摺先行型足場	KT-010074-A	211	常時手摺が設置されている状態で足場の設置・撤去作業を行うことにより転落事故を防止する枠組足場
2	簡易式体感マット	TH-040016-A	96	リング状の集合体をジョイントで結合することで、従来の体感マットのように路面への固定を行わずともめくれ上がらない、もらい事故防止用体感マット
3	広幅型鋼矢板	KT-980158	46	従来の矢板(有効幅400mm)より幅の広い(有効幅600mm、900mm)矢板を使用することで矢板の使用枚数を減じ、工期の短縮および施工費の低減を図る矢板工
4	ハット形鋼矢板900	KT-050017-V	33	断面形状をハット形とすることで鋼重あたりの断面性能を向上させ投影面積当たりの材料費の削減を図り、有効幅の拡大(400mmから900mm)による使用枚数の低減から工期の短縮及び施工費の低減を図る矢板工
5	Qマット	KT-980368-A	30	コンクリート構造物の湿潤・保温養生材
6	残存型枠工法「残存型枠プロテックピアスワンダー」	CB-980008-V	27	コンクリート製パネルを用いることでコンクリート打設後の取り外しを不要とする型枠
6	枠組み足場用安全装置	TH-020019-A	27	従来の枠組足場に後付けすることで、転落事故を防止する手摺先行型足場としての使用が可能となる装備品
6	ディスパライト	KK-990050-A	27	コンクリートの打継目処理において、レイタンス処理としてコンクリート硬化前に行っていた作業を、コンクリート表面の水和反応を遅らせることで、硬化処理作業時期を延長できるコンクリート打継目処理剤
9	パワーブレンダー工法(スラリー噴射方式)	CB-980012-V	26	改良材をスラリー状に混練後バックホウに取り付けたアタッチメントにより軟弱土と攪拌混合し固化する地盤改良工法
10	ピカコン(気泡抜き取り具及びフレッシュコンクリート表面仕上げ方法)	SK-040007-A	22	コンクリート表面の気泡痕を手作業のみで大幅に減少させることができる先端部が櫛状のフレッシュコンクリート表面仕上げ用器具
10	デルタクッション	TH-020040-A	22	再生ウレタン材を活用した車両用保安防護体

注) 活用件数は活用計画書の提出数でカウントしているため、実際の工事における活用時期と活用報告書への報告時期が異なっている。

(活用計画書提出後、新技術の活用が取りやめになった場合は翌月の報告に反映)

(平成20年第1四半期)

# 新技術の活用【月間ランキングトップ10】

## 平成20年6月の新技術活用ランキング

順位	前月 順位	技 術 名	NETIS番号	活用 件数	技 術 の 概 要
1	1	手摺先行型足場	KT-010074-A	106	常時手摺が設置されている状態で足場の設置・撤去作業を行うことにより転落事故を防止する枠組足場
2	NEW	簡易式体感マット	TH-040016-A	86	リング状の集合体をジョイントで結合することで、従来の体感マットのように路面への固定を行わずともめくれ上がらない、もらい事故防止用体感マット
3	NEW	広幅型鋼矢板	KT-980158	44	従来の矢板(有効幅400mm)より幅の広い(有効幅600mm、900mm)矢板を使用することで矢板の使用枚数を減じ、工期の短縮および施工費の低減を図る矢板工
4	NEW	枠組み足場用安全装置	TH-020019-A	27	従来の枠組足場に後付けすることで、転落事故を防止する手摺先行型足場としての使用が可能となる装備品
5	9	パワーブレンダー工法 (スラリー噴射方式)	CB-980012-V	13	改良材をスラリー状に混練後バックホウに取り付けたアタッチメントにより軟弱土と攪拌混合し固化する地盤改良工法
5	14	デルタクッション	TH-020040-A	13	再生ウレタン材を活用した車両用保安防護体
7	14	ディスパライト	KK-990050-A	12	コンクリートの打継目処理において、レイトンス処理としてコンクリート硬化前に行っていた作業を、コンクリート表面の水和反応を遅らせることで、硬化処理作業時期を延長できるコンクリート打継目処理剤
8	5	Qマット	KT-980368-A	10	コンクリート構造物の湿潤・保温養生材
8	14	カプセルプリズム型高輝度路上工事用標 示板(工事看板)	TH-070005-A	10	ガラスビーズを反射素子に使用していない高輝度反射シートを用いた工事用表示板
8	NEW	エコ電線・ケーブル	KT-990513	10	焼却してもダイオキシン・ハロゲンガス等の有毒ガスを発生せず、埋立処分しても鉛等の重金属を溶出しにくい難燃性ポリエチレンにより被覆されたケーブル

注) 毎月の活用件数は活用計画書の提出数でカウントしているため、実際の工事における活用時期と活用報告書への報告時期が異なっている。  
(活用計画書提出後、新技術の活用が取りやめになった場合は翌月の報告に反映)

(平成20年6月期)